

都市の民俗誌研究のあり方をめぐって

——民俗研究映像『金沢七連区民俗誌』の製作プロセスから——

小林 忠 雄

-
- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 都市の民俗誌研究の前提 | 4 映画『金沢七連区民俗誌』のシナリオ |
| 2 都市の民俗誌研究のあり方 | 5 映像民俗学に関する若干の考察 |
| 3 映画『金沢七連区民俗誌』の製作 | |
-

論文要旨

本稿は1991年（平成3年）度に、本館の民俗研究部が実施した民俗研究映像『金沢七連区民俗誌』の製作過程を通して考察した、都市民俗誌研究のあり方をめぐる論考である。

まず最初に都市の民俗誌研究とは何かについて、筆者がこれまで思考してきた都市の捉え方、研究視角に関する前提となる私見を述べたが、ここでは都市とは近代化の変容を余儀無くされたマチであり、柳田國男が捉えた「都市は輸入文化の窓口」というように西洋文化の移入によるファッション性が高く、より合理性を追求して生活技術文化を構築したマチと定義した。

従って、都市の民俗誌を描く際に何が主要なテーマとなるのかを列記し、具体的な調査の方法のあり方に関する私見、調査地における注意点や調査項目に関する私見を述べた。

すなわち、主として都市は感性による影響が強く、またより斬新で利潤につながる情報を求める性格のあるところから、農村の民俗社会の捉え方と異なる点を指摘した。

以上の都市の民俗誌研究のあり方を踏まえて、より有効な表現の一つである映像による方法について、金沢という都市の現状を捉えた映像記録のプロセスを順に追いながら、どのような問題があるのかを示した。

そして、最終的にまとめた成果として完成シナリオを提示し、最後に映像民俗学と都市民俗誌研究における有効性を整理し、かつ問題点を指摘しながら若干の考察を行なった。

いずれにしろ、論文および映像のいずれの表現方法にも問題があり、それぞれの利点を生かしつつ都市の民俗誌を描くしかないことを強調したのである。